

第16回 第1分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所 第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年2月9日（木） 午後6時30分～午後8時30分	記録者	【学生補助員】 田多井さやか 古谷聡子
		責任者	区事務局（菊地、並木）
<p>会議出席者：29名 （学識委員：2名 区民委員：22名 区職員：5名）</p>			
<p>■配布資料</p> <p>① 新宿区民会議 第1分科会（第16回）次第 ② 第15回会議録 ③ 第18・19回開催通知 ④ レポート（案） ⑤ パワーポイントイメージ ⑥ 地域わくわく子育てフォーラム開催チラシ ⑦ 平成17年度新宿区区民意識調査 要約版</p> <p>■進行内容</p> <p>1. 本日の進め方について 2. 中間発表会レポートについて 3. その他（事務局）</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1. 本日の進め方について</p> <p>●：（司会 高山）</p> <p>皆さんこんばんは、会議を始めさせていただきたいと思います。初めに本日の進め方です。現在は3つのグループに分かれておりますが、各グループのリーダーと第1分科会のリーダー、サブリーダーに開催前に集まってお話しして、ある程度のレポートのまとめを行いました。このレポートは中間発表会の際に参加者に配るものです。今日は、このレポート（案）を各グループで編集、確認していただきたいと思います。その後、時間がありましたら、中間発表の発表者と使用するパワーポイントなどについて検討したいと思います。次の会議がある2月16日にリハーサルができるようにまとめていきたいと思いますので、ご協力をお願いします。</p> <p>次に、本日の配布資料の確認です。まず第15回会議録と第18・19回開催通知（最後に、事務局から説明があります。）、続いて、本日、検討しますレポート（案）です。パワーポイントイメージもご参照いただいて、討議を進めていきたいと思います。</p> <p>2. 中間発表会レポートについて</p>			

では、先に開かれましたグループのリーダー会議で検討した結果の部分だけを説明させていただきます。まず、レポートのリード文としての「①まず共通の認識をもつ」の項目の後に、「親への支援グループ」のレポートがありますが、少し内容が足りないということで、前文や親への支援の段階を「ホップ!、ステップ!、ジャンプ!」に分けた説明文を入れることになりました。グループの皆さんは、その原稿の内容も含めて、話し合っていたと思います。次に、「乳幼児・小学生グループ討議内容」という項目は、「乳幼児・小学生グループ」というよりは、分科会全体の問題となりますので削除させていただいて、別に乳幼児に関するレポートをまとめていただくことになりました。次に、提案整理表(現行の行政施策)の3枚と「今回の区民会議は・・・」の3枚は、今までの分科会での論点をまとめていただいたものですが、全体会で公表するものでなく、私たちの討議の拠りどころとして参考にすべきものと判断しました。したがって、全体のページ数が40ページまでに限定されていますので、これを削除し、以前に「旧・子育てのための環境グループ」、「旧・小中学生グループ」、「旧・青少年グループ」でまとめたレポートを再度編集し直そうと考えました。最後に、レポート全体のまとめの文章と第1分科会の活動記録を入れたいと思います。

また、リード文にある第1分科会の理想とするビジョンとして、次世代育成支援計画にある目標の外に追加して目標10まで書きました。今日、議論していただくことで、入っていないものや削除したいものがありましたらご提案願いたいと思います。

それでは、以上のところをグループのリーダー会議で吟味しましたので、後のところは委員の皆さんで検証していただき、この内容で妥当かどうかを議論していただきたいと思います。議論の方は1時間程度を予定しております。その後に、5分程度で各グループに発表していただきます。最後に、学識委員からご意見を伺い、修正を加えてレポートを作成していきたいと思います。

各グループで討議

●：(司会 高山)

今日は先ほど申したとおり、レポート(案)を検証していただき、付け加えるところは加えてもらい、不要なところは減らしてもらって整理していただきました。そのところを発表していただき、完成レポートにしていきたいと思います。3つのグループの発表が終わりましたら、学識委員から講評をいただきたいと思います。

それでは、「乳幼児・小学生グループ」から発表をお願いします。5分前後でお願いできればと思います。

●：(乳幼児・小学生 小原)

まず、乳幼児関係のレポートとして、以前、旧乳幼児グループで発表の時に作成したレポートに差し替えます。その中で、「子育てを核とした地域再生」に焦点を当てて、発

表しようということになりました。今日は、その内容を詰めました。

「旧乳幼児グループ」のレポートから大きく変わったところは特にありませんが、最後の部分で、1~2行、具体策を付け加えました。表は3枚入っていたのですが、分かりづらいので、現状のイメージ図と最終的な達成されたイメージ図を載せることになりました。

また、小学生のところでは、本日のレポート(案)よりも分かりやすいレポートが、前に「旧小・中学生グループ」で作成したレポートにあったそうなので、そちらをなんとか明日までに再編集していただき、差し替えの予定です。

また、リード文にあるビジョン(目標)の6~10について、話し合った結果、手直しを入れる予定です。

●：(司会 高山)

それでは、その議論はそのまま続けて、まとめましたら提出してください。それでは次に、「親への支援グループ」をお願いします。

●：(親への支援 田谷)

内容についての「ホップ!、ステップ!、ジャンプ!」は、前回のレポートのままが良いということになりました。その前に前置きをつけて、「どうしてそうなったか」という部分を付け加えようと思います。「いまどきの親は」というところから議論が始まったので、「いまどきの親は」が「最初の一步」だったかもしれません。なぜ「いまどきの親は」と言われてしまったのでしょうか。そこには、

- ・子どもの人格を認めないしつけ
- ・人の話を聞かない親がいる
- ・親になりきれない親
- ・近隣とのつながりが薄い

ということがあります。その中で子どもの人権が守られていないことが問題となっています。ですから、子どもの権利条約の4つの権利を追加したいと思います。その後に「目指す解決策は」という流れにして、親となり、いろいろな問題に直面した時に悩みを抱え込んでしまわないようにということで、

- ・核家族、孤育てが増えて、子育ての先輩から意見を聞く機会がないのであれば、チャンスをつくろう。
- ・さまざまな困難を抱えている家族を早期に発見し、さまざまな援助を開始すれば、虐待等深刻なケースに至ることが避けられるのでは。また、地域の中に子育て家庭の居場所をつくっていく。

この二つを解決策として目指し、まずは妊娠から育児までの親としての成長に合わせ、「ホップ!、ステップ!、ジャンプ!」と段階ごとに支援の方法を考えてみました。

段階としては、

- ・妊娠したら「知ることが大切」というテーマで「ホップ!」

・泣かないで、どうしたらいいの？と、困っている親に、出産したら「悩みを聞きませ、教えます」というテーマで「ステップ！」

・教え合いましょう、子どもと一緒に歩みましょう、子育て真っ只中の親に「切磋琢磨」というテーマで「ジャンプ！」

という3つの段階でレポートをまとめたという前置きを書いて、お配りしてあるレポート(案)の「ホップ!、ステップ!、ジャンプ!」を付け足そうと思っています。

●：(司会 高山)

ありがとうございました。従いまして、これらの内容を1枚追加するという事ですね。では、そちらの整理もお願いします。

それでは、次の「中学生・青少年グループ」をお願いします。

●：(中学生・青少年 山田)

本日は「旧小・中学生グループ」がつくったレポートから見直しをしました。小・中学生と言うものの、ここでは小学生がベースになっているので、そういったところで修正が必要という意見もありましたし、中学生についてはこれから、中間発表会が終わってから、いろいろな実地調査をしたいという意見もありました。結論としては、今回は中学生の部分は今後の課題としておくことになりました。

さらに、大きな点としましては、子どもというか青少年というか、その年代によって、呼び方を悩んでしまうのですが、彼ら自身が、自主性、主体性を持って、子どもの意思で参画できる権利について、きちんと明記しておいたほうが良いのではないかと考えました。青少年の部分に「子ども自身の参画の視点の重要性」加えて、「旧地域の中での子育てグループ」が以前提出したレポートの中で指摘した論点を追加していこうではないか、という結論になりました。

●：(司会 高山)

どうもありがとうございました。時間のことを何度も言って申し訳ないのですが、レポート原稿をなんとしてでも明日中に集めて、来週には印刷に回し、19日の全体会では正式なレポートを配らなければなりませんので、よろしくお願いします。各グループで打ち合わせて、確実に原稿をあげていただきたいと思います。原稿は事務局へ渡していただければ、事務局で字体やポイントの整理をしたうえで、完成原稿となります。

なお、ビジョン(目標)について、各グループで何かありましたらお聞きしたいところなのですが、「乳幼児・小学生グループ」は、まとまりましたか。

●：(小原)

このグループで考えた案なのですが、目標の6のところは「子ども～、子ども～」と2回書いていることや、最初に考えていた目標と違うということで、「子どもたち自身も社会の一員として参画できるまちづくりを目指します」とした方が良いのではないかと考えました。それから目標7「望ましい未来社会を担える人材を健全に育成する社会」は、少し分かりにくいので、削除という結論になりました。目標8は「伝統と知恵と環境を

伝承していく社会」で終わらせず、「伝承していきます」にします。目標9の「新しい地域コミュニティの再生とネットワーク」と目標10の「誰もが愛着を持てる町」は、合体させて、「誰もが愛着を持てる地域コミュニティの再生をします」とします。目標9にある「ネットワーク」を仮に入れるのであれば、目標7でネットワークを担う人材、または意識を啓発したいと書いているので、それに代わるかものはないかという議論をしているところでした。

●：(司会 高山)

ありがとうございました。他のご意見はいかがでしょうか。

「乳幼児・小学生グループ」から提案がありましたが、その他の意見がなければ、分科会終了後に各グループリーダーが集まりますので、その際の議論の結果に任せていただいてよろしいでしょうか。

出席委員から了承を得る。

●：内容ではありませんが、「子ども」という字の「ども」がお供の「供」になっていたり、平仮名で「ども」となっていたりするのですが、「子どもも一人の人格のある人間なので、お供はしない」ということで、子どもの「ども」は平仮名を使うということによってよろしく願います。

●：(司会 高山)

ありがとうございます。統一したほうが良いので統一します。

●：(工藤)

目標7の中の「人材」という言葉は、ビジネスっぽくて、そぐわないと思いますので「市民を育成する社会」にしたらどうでしょうか。また、個人的な意見なのですが、子どもだけではなく大人も市民になっていくことが必要と思います。

●：(司会 高山)

それでは、こうした結論を踏まえて、学識委員から意見をいただいて、完成レポートの参考にしていきたいと思います。よろしく願います。

◎：(汐見)

明日までに完成原稿を提出しなければならないという中で、3つのグループで出されているレポートの形式、活字の大きさ、レイアウト等が全て違いますから、このまま中間発表会に出していくと、第1分科会の委員は活発にやっているなという印象を与える一方で、まとめる人がいないのかなという印象も与えてしまいそうですね。ただ、中間発表ですから、ぱっちりまとめたものでなくて、抜けていても、抜けていることをきちんと自覚していれば良いと思っています。しかし、読んでもらう人のことを考えて、ある程度フォーマットをまとめて、第1分科会としてまとめましたという形にしておいた方が良いと思います。

最初の書き出し部分とデータ資料は、私はこのままで良いと思います。こうやって議論してきて、現状認識はこうで、こういった問題があるんだということが分かるので良いと思います。細かいデータは、探せば出てくるのだらうと思いますが、僕はこのままで良いと思います。

次に「親への支援」では、私はテーマ毎に、四角に線で囲ったことで、他のグループの部分よりは見やすいと思いました。現状と課題、どのような取り組みが必要であるのか、区民と行政の役割、達成された姿はどのような状態か、ということが基本的に繰り返されています。長い文章でもなく、項目だけにせず、文章にしてくださっています。読むだけでも大変というわけでもなく、理解するのも大変というわけではありません。この程度が良いのかなど、個人的には思いました。

中身は前書きがついて、よく分かったのですが、今回の具体的プランは、まず妊娠から育児を始めるあたりまで書かれていて、今までにない非常に緻密な子育て支援のプランを提案しています。出産前後の細かな心配事として、外国人への支援も含めて、子育てで最初に戸惑う部分が詳しく書かれています。個人的には、「すごく、これはうける」のではないかという気がしました。しかし、その他は、まだ詰めきれていないということで、今後の課題としておくと良いと思います。

当初、「親への支援グループ」は、「いまどきの親は」ということで、親としてももう少し、きちっとした教育が必要なのではないかということが議論になっていました。今後は、そこで出された意見をどう活かしていくかが大切だと思います。親に強制するということは、まずいですが、親としてさまざまな関わり方を学ぶということで、「親学」とか「親力」というように最近は言われています。その「親力」アップのための学びのシステムというものを住民の義務ではなく権利として保障していく。そういう構想について議論していけたらと思っていたのですが、そこを少し顔だけでものぞかせておけば良いのではないかと思います。

次に、「乳幼児・小学生グループ」ですが、こちらもだいたい内容は前回のレポートからの採用で良いと思ったのですが、書き方を同じレベルでそろえてもらえればと思いました。これが今からできるかどうかということですが、可能なら「親への支援グループ」のフォーマットと合わせた方が良いでしょう。

また、これは大きな課題ですが、子育てへの支援は出ているのですが、子どもたちの「子育て」が全体としてまだ出ていないようです。小学生では、放課後どこで遊ぶとか、青少年でも、居場所という問題が深刻なのです。ご存知かもしれませんが、大阪府が今年の2月1日から新しい条例を施行しました。これは16歳未満の子どもたちは19時以降ゲームセンター、カラオケボックス、その他それに類するものの出入りはしてはいけないという、全国では考えられないくらい厳しい条例です。もし、この条例に反すると、業者は30万円以下の罰金になっています。こうした青少年条例は全国にあります。東京の場合はカラオケボックス等には、18歳未満が23時以降出入りしてはいけない

ということになっています。ところが大阪府はそれよりも下げ、それで効果があるのかは分かりませんが、全体として何か法をつくって、取り締まって、夜の間は子どもたちがまちに出てこないようにするという方向なのです。その狙いは、家庭でもっとしっかり管理しなさいということなのです。それでいて、この条例を子どもが破った場合に、親には何か罰則があるのかと思うと、それはないのです。けれども、日本の社会には中学生のようにエネルギーがあり余っている子どもたちが、学校から帰ってきて、家にいて、いったい何をするのだと思います。結局、子どもたちは「たまりたい」ということなのです。しかし、そのたまる場所をどこにも保障しないで、たまってはいけない場所をはっきりしていくという施策では駄目なのです。何が問題なのかということですが、やはり若者たちがここだったら、たまって良い、例えば「ここだったら夜、バスケットボールをしていいぞ」という場所がない。今、子育て支援の一環として小学生以下の子どもたちには児童館があるといった対策がとられていますが、現実には一番多感な思春期の子どもたちの居場所は公園やコンビニしかないということなのです。そういうことを考えると、レポートの後半の部分で、例えば冒険遊び場について施策を広げていくようなことも考えていく、それは子育てについての環境整備、環境支援を考えていくことになります。つまり、「このことは、まちづくりにつながります。」ということを出しにでも発表しておかないと、「子育て支援」だけになってしまいます。

また、学校・教育の分野では、これもフォーマットをそろえてほしいと思います。他には、学校教育の歴史が少し中途半端になっているような気がします。ここは書かなくても良いと思います。提言の部分は、もう少し膨らませてもらわないと、バランスがとれないと思いました。

もうひとつお願いしておきたいのですが、これも議論が必要なので、頭出しだけで結構ですが、提言①に「地域教育力アップの人材バンクづくり」がありました。要するに学校の授業等を手伝うような方たちの人材バンクを新宿区でもつくってほしいということだと思います。実は、思春期や小学校の高学年の子どもたちをもった親が悩むのは、家庭で子どもたちにどうやって接していけば良いか、だんだん分からなくなってくるということです。特に、少し「つっぱり」始めた児童・生徒が、学校の先生が気に入らないということで不登校になり始めたため、どうしたら良いかということで、気軽に相談するシステムがありません。そこで、気軽に相談するにはどこが一番良いかという、実は学校なのです。だから、学校の中に親が気軽に相談できるような居場所があると、本当は良いのですが、学校は現状のままであると、親にとってもすごく相談に行きづらい場所なのです。そうしたこともあり、学校がもっと敷居を低くして、先生の本音を聞けるとか、子どもの育て方についていろいろとアドバイスをもらえるだとか、そういう場所がないと学校そのものが変わりません。そういう意味で、地域の人が学校に入っていくだけでなく、学校の中に学校に子どもを通わせている親の居場所をどうつくるかということは、学校改革の中で大きなテーマでもあります。「子どもの居場所づくり」とい

うものが事業としてありますが、それに加えて「親の居場所づくり」というものもあってほしいと思います。そういうことも、これから議論しなければならないことですが、それらも頭出しにさせていただけると良いかなと思います。

次に、「親への支援」に戻ります。書き方のちょっとした工夫なのですが、最初に「始めの一步～知ることが大切～」とあり、「どのような取り組みが必要か」というところで、こういうものを実施する、新しくこういうことを実施するということが書いてあります。しかし、既に新宿区ではこれまでに、こういうものを実施してきた、発行してきた、工夫してきたというものを紹介して、本当はこれらを活用しなければいけないと思います。全部新しく始めるとすごく無駄な作業になります。今あるものを活用していくということがあって、それでも足りないのだからこういうものを追加していかなければいけないというプロセスが必要です。ですから、この書き方としてはこうこう、こういうものがある、それをこのようにして円滑に活用したり、利用したりするということを必ず入れながら、それだけでは実は全然足りないのだということやそこに盲点があるのだということを書いていけば、行政が行っていることの評価にもつながります。全体の施策としては、この分野はこのようなことをしているが、これをもう少し活性化するとこうなるというように表現すると、今までの取り組みと整合性がとれます。そういったことが大切だと思うのですが、こうしたことを書き込むとなると、明日まででは無理でしょう。

◎：(杉山)

私は本をまとめる仕事をしていますので、その視点から意見をさせていただきます。このレポート(案)を全く何も知らない人が読んだ時に、どこから読んでいいのか分からないと思います。「結局、何が言いたいのか？」というところに落ちていかなければなりません。そのあたりが「目次」であり、「これがレポートの命だ」と編集者は思うのです。題割や構成といった部分です。そこに、起承転結があって、そこで「何が言いたいのか？」ということが分かってくる。ですから、これは絶対におざなりにしてはいけません。分科会が終わった後で、起草委員の方たちが検討されるのだと思うのですが、タイトルは何にするのか、見出しは何にするのか、ということは全部、目次の作成段階で決めて、統一した形をとることは基本中の基本です。

次に、文章で書くのか、項目で出すのか、そのあたりはどうするのでしょうか。文章になっているところもありますが、箇条書きだけで終わっている箇所もあります。さらに、箇条書きでも星マークのところもあれば、丸マークのところもあって、これはどうするのだろうと思うのですが、編集というのはこういうことなのです。統一感がないと、他の分科会の人を読めません。中間発表会には他の分科会の委員が読んで「第1分科会の言いたいことはこれなのだね、分かった！」と読んでいただけなければならないのですから、そうしたすり合わせにも時間をとっていただきたかったと感じました。

次に、最後の部分の「まとめ」ですが、結局第1分科会から第6分科会まで、このような各40ページ程度の冊子になるのですから、全部を完全に読む人はいないでしょう。

ほとんどの方が、最後の「まとめ」を読むことになると思います。ですから、この「まとめ」がとにかく大切であると思うので、ここを起草委員の方たちが合意できる文章にして、出していただけると良いのではないかと思います。項目は「場づくり」、「機会づくり」、「ネットワークづくり」、「環境づくり」、「学び舎づくり」とありますが、これは第1分科会の合意事項と判断して良いのでしょうか。今のレポートの状態ですと、分担している感じが表に出てしまっているのが、最後の「まとめ」でひとつにするとより親切だと思います。ですから、せめて「まとめ」のところは文章の形が良いと思います。政府や区が出している提言等を参考にして、文章にしたら良いと思いました。

内容について申しますと、ネットワークとかコミュニティという言葉がよく出てきていると思うのですが、もうちょっと柔らかな表現で言うと「支え合い」とかいうものなのかなと思います。「お互い様の気持ちでやりたいんだよね」と表現が入っていれば良いのではないかと感じました。また、目標の部分では、先日、区長のお話を伺いましたところ、「新宿区のキーワードは『多様性』であること、『懐が深い』ということだと思うのです。」と何度もおっしゃっていました。その言葉がとても私には印象に残っていて、そうしたこともレポートに書いていただけると良いのではないかと感じました。

最後に、「親への支援」ですが、親が何かの集まりに参加しているばかりではなく、親を受け手にしない支援というのが最近のブームですので、最初は支えられるのですが、ある程度経ったら、担い手に回るという主張もはっきりと入れてほしいと思います。この書き方だと少しわからない部分があります。親が親を支えるという「相互支援」ということです。

●：(司会 高山)

ありがとうございました。ご指摘いただいたことを参考に、できる範囲内のところで作成していきたいと思います。

予定の時間となりましたので、最後に事務局から事務連絡をお願いします。

3. その他(事務局)

○：(並木)

次回の日程です。(下記を参照)

また、本日の受付をした際に中間発表会の出欠についてもお聞きしましたが、再度、この段階でご欠席の方がいらっしゃれば教えていただきたいのですが、本日出席の委員は出席予定ということでよろしいですね。

●：(司会 高山)

それでは、今日はこれで終わりにします。申し訳ないのですが、グループの代表の方は残っていただいて、レポートの編集作業についての打ち合わせをしたいと思います。

今日はありがとうございました。

次回のリハーサルもよろしくお願いいたします。

第17回（中間発表に向けてのリハーサル）

日時：平成18年2月16日（木）

午後6時30分から午後8時30分 予定（夜間）

場所：ゆったりの

第18回

日時：平成18年3月1日（水）

午後1時30分から午後3時30分 予定（昼間）

場所：新宿区役所第1分庁舎 7階 会議室

第19回

日時：平成18年3月16日（木）

午後6時30分から午後8時30分 予定（夜間）

場所：新宿区役所第1分庁舎 7階 会議室